舞い上がれ
社会を変える
みんなの力
休眠預金を活用した事業です

子ども･若者を育む地域創造事業
～事業報告書～

特定非営利活動法人（NPO）スイスイ･すていしょん

〒532－0031　大阪市淀川区加島１丁目４９番２５号
コミュニティかしま内
ＴＥＬ ０６－６３０９－０４０４
ＦＡＸ ０６－６３０４－２４７４

はじめに

- 　当法人が活動を展開する加島地域(大阪市淀川区)には約1280世帯が居住する公営住宅が立ち並んでいます。公営住宅の入居の条件として、所得制限や世帯の特別な事情（ひとり親世帯・障がい者世帯など）が、入居に際する条件として定められているため、課題を抱える世帯の入居も少なくなく、「不安定な就労（または不就労）」「生活保護の受給」「高齢化」など、多様な課題が輻輳しています。それらの状況から社会孤立が進み、「住民同士の関係の希薄化」や「貧困の連鎖」「地域活力の低下」が深刻な課題となっている現状です。
- 　当法人は、それらの課題をキャッチしできることから事業に取り組んできました。今回、休眠預金活用助成金を原資に取り組みを拡大させることによって、それらの課題解決に向けより一層事業を活性化させたいと考えエントリーし3年間の事業に取り組みました。
- しかしながら、選任のスタッフもいない、ボランティアも一桁の草の根団体が想いだけで取り組むには休眠預金活動助成金はとてもハードルが高い助成金でした。3年間、取り組みを進めるなかでは良い出来事もあれば、課題やしんどさも沢山ありました。
- それらの事実をありのままにお伝えすることによって、今後、同じような草の根団体が休眠預金活用事業に取り組む際の参考となるように、また、今後の私たちの取り組みの改善につながるように、さらには、このような私たちの考えに賛同し応援してくれる人が増えることを願って報告書を作成します。

～法人のこれまで～

2004年 設立

当法人は、人権文化を育む教育と社会福祉の創造というテーマに関して、地域における社会教育・学校教育・家庭教育・福祉活動を支援するとともに、そのネットワーク化をはかりながら、地域教育システムの構築と人権・教育・福祉のまちづくりを進め、その成果をふまえ、広く社会に情報発信・提言する事業をおこなうことによって、人と人とが水平な関係で結びあい支えあい高めあう社会の実現に寄与することを目的に事業を展開しています。

休眠預金活用助成に向けて

団体の在り方を検討すること
(持続可能性)

活動の活性を図ること
(受益者へのサービス)

事業の見直しをすること
(社会的インパクト評価)

3つを追求しながら社会課題の解決に向けて取り組む

休眠預金活用事業
～ 概 要 ～

- 主に公営住宅に居住する子どもを対象に「人とつながる場」「さまざまな経験の場」などを通じて、心を育み、子ども自身の自己肯定感を高めることや未来の地域活動を担う人材育成に取り組み地域住民がつながりを実感できることをめざす事業です。
- スタッフには社会孤立状態の若者も起用し、その若者の「居場所づくり・役割の提供」から社会的な自立促進を行いました。
- 子どもや若者の保護者に対する包括的な相談支援により経済的困窮状態や家庭内の課題解決をはかり、安心・安全な地域の創造をめざしました。
- そのための活動として「子ども食堂」「学習支援」「郊外活動」「伝統行事」それらの場を活用した「就労体験」「総合相談支援」を実施しました。
- 事業終了時には「支援者及びスタッフの増加」「資金の調達」ができ、事業の継続に至るよう努めました。

事前評価から見えた社会課題
～特定された課題の妥当性～

- 地区実態調査報告書(2012年11月)に基づくと、その周辺地域に居住する人々に比べ、低所得である傾向や、独居、ひとり親家庭の世帯が多い傾向が見られました。本事業が目的とする「各々の抱える課題の解決」「社会孤立状態の予防・解消」「子ども・若者への負の連鎖解消」等にあたって、本事業の実施に際し妥当な地域であると評価委員会(当団体会員・経営コンサルタント・社会福祉士で構成）にて合意しました。
- また、対象地域に所在のあった市民交流センターが廃館となった7年前より、地域住民同士が共に集まり物事に取り組む機会が激減し、人々のつながりが希薄化した状況にある。上記の実態調査内でも、今後あればよいと住民が望むサービスとして、「近所での仕事の紹介・あっせん(18.0%)」「困ったときの相談窓口サービス(41.0%)」を求めるが上がっています。
- それぞれのコミュニティは持っているが、住民自治につながる動きや困りごとを相談できる関係づくりは乏しく、今後の地域の活性や発展を考えた際にも、今一度、それぞれの住民が縦にも横にもつながり物事に取り組む機会が重要ではないかとの意見や、本助成事業を活用し、新たなつながりを生む機会の提供が求められるとの意見が交わされました。

事前評価から見えた社会課題
～特定された事業対象の妥当性～

- 子ども・保護者・高齢者に対し実施したヒアリング調査では、子ども達の孤食の問題が浮き彫りになりました。保護者が不在のなか、一人でラーメンやパンなど、決まった食事(固食)を摂取していることから、子ども食堂で大勢と賑やかに食事することや栄養バランスの整った温かな食事に喜びを語る子どももいました。また、外出を伴うイベントの実施では、参加費について保護者に伝えることができない子どもや、捻出が困難であり已むなく参加できない子どもの存在もこれまでの事業において度々見られました。
- さらに保護者からは、生活が厳しく個別の食料支援を望む声が上がり、フードバンクと連携した食糧支援を実施してきた経過や、日々、仕事・家事・育児に奔走し、気づくと自身の休まる時間が持てていないことや子育ての不安を一人きりで抱える状況下にある保護者も存在しました。
- また、高齢者については、加島地区高齢者生活実態・ニーズ調査(2012年12月)に基づくと、「世帯の年間総収入200万未満(39.0%)」が一番多い数値であり、近所付き合いに割く費用の捻出が困難であることや、近所付き合いが「よくある(45.4%)」に対し、「時々ある」「ほぼない」「まったくない」については合わせて46.5%と半数に、社会との関わりが薄れ外出の機会が減少している状況が見られました。さらに、生活苦による制度の活用に関する手続きへや、コロナ禍に伴う定額給付金の申請時などに際しても、一人で進めるには不安が残るとの声も聞こえました。
- これらの状況から、これまでのおしゃべり会や子ども食堂を活用することに加え、本助成事業を活かし、これまで対応できなかった「金銭的負担により参加できない子どもへのフォロー」や「生活困窮状態の根本解決につながる相談支援」「手続きや日々の困りごとに寄り添う相談支援」などを講じ、各々の課題解決を図るに値する対象者であるとの評価結果に至りました。

事前評価から見えた社会課題
～事業設計の妥当性～

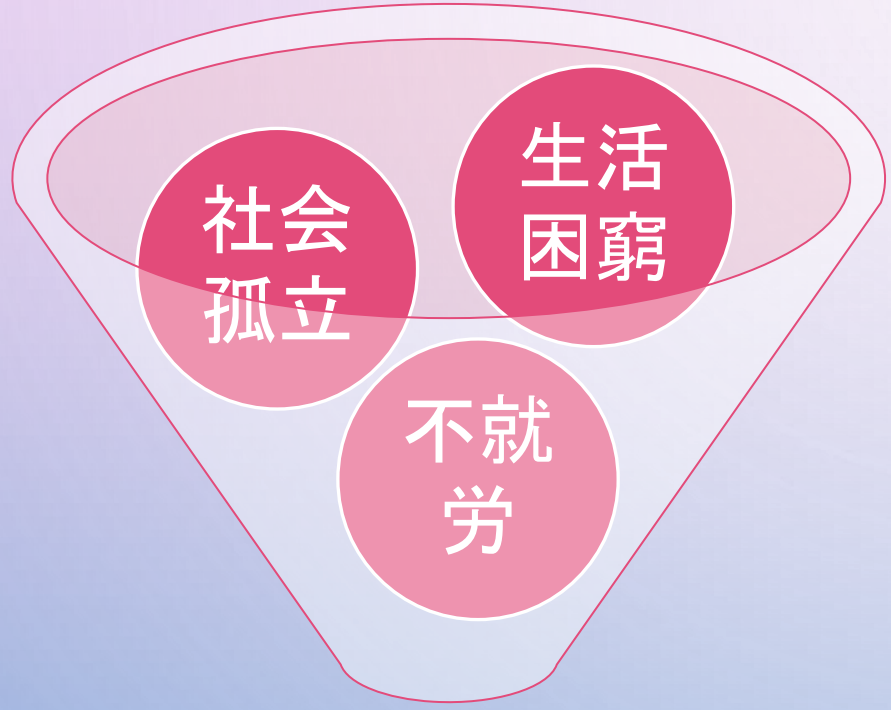
- 団体目的ビジョンである「社会孤立のない住民参加型の地域として、誰もが尊重され高め合うことができる地域の創造」「子ども・若者が未来の担い手として育まれ活躍できる地域の創造」の実現に向け、前述に対する課題解決が求められています。※参照：事前評価から見えた社会課題～特定された事業対象の妥当性～
- 「社会孤立のない住民参加型の地域」については、各事業の運営者側に社会孤立状態である人等を起用し、地域の輪の中へ導く仕組みづくりができている状態です。
- 「誰もが尊重され高め合うことができる」については、各事業対象者がありのままの自分として、事業を活用できるよう活用しやすい雰囲気づくりや、それぞれの能力や個性を生かした時間を過ごすための工夫はされていますが、事業対象者の発見や課題の把握に努める手段が未熟であると考えるため、その点を重点的に再計画することが必要と考えます。
- 「子ども・若者が未来の担い手となる」については、各事業において対象者が得意とする部分を、そうでない人に伝えフォローする仕組みやできなかったことができるようになり、達成感・自信の習得の機会の提供につながる仕組みが整っている状態です。
- 「活躍できる地域」については、各事業において事業対象者が事業提供者側になる等の機会を設けることによって、支援を受ける側から支援を提供する側になるなど、自己有用感の習得につながる仕組みが整っている状態です。
- 団体目的ビジョンの達成に向け、概ね短期アウトカム・中長期アウトカムに問題はないと考えられますが、事業の進捗と同時に柔軟に変容させる視点をもって取り組むことが望ましいとの意見が上がりました。
- またコロナ禍を受け、大幅に事業実施スケジュールが変更となっている点については、実施時期がずれることはあっても、事業は必要と考え計画されているため、確実に実施することが評価委員会にて確認されました。

事前評価から見えた社会課題
～事業設計の妥当性～

- 2020年6月15日(月)に実施された通常総会の後、当法人の正会員に向け事業内容が目的に向け取り組める内容になっているか今一度確認を実施しました。
- 各会員からは、「事業の計画や実施が主催側の自己満足とならないよう常に事業対象者の立場に立ち展開されるよう取り組むことによって、有意義な事業になると考えられるため推進していきたい」との総意を得ました。
- 各事業関係者間の事業理解は正しく進んでいるものと捉え、事業設計に妥当性があると評価委員会にて確認されました。

事前評価結果を受けて

社会課題



「子ども・若者への影響」「負の連鎖」

事業を通じ

短期アウトカム

「積極的な支援の関りから、地域の子ども・保護者・社会孤立者・高齢者に人とのつながりが生まれる」

長期アウトカム

「社会孤立のない住民参加型の地域として、誰もが尊重され高め合うことができる地域の創造」

「子ども・若者が未来の担い手として育まれ活躍できる地域の創造」

事前評価を行った結果見直した計画やロジック

事前評価では、取り組みを見直すほどの十分な評価が行えませんでした。

取り組みのニーズ、対象、設計について事業計画通り進めていきましたが、事前評価を深く追求することによって、もう少し具体的な事業計画の設計につながり事業効果もより向上したのではないかと想像します。

十分に事前評価が行えなかった要因としては、社会的インパクト評価に初めて触れたこと、事業開始前には学びが追いついていないこと、それらにより十分に評価を行えなかったと考えます。

しかしながら、その後、評価の必要性を実感し学習会や書籍を通して学び中間評価時点ではアウトカムにつながるアウトプットの効果の見直しやロジックの見直しを行うことにつながりました。

さらに、日々の取り組み過程においてその直後及び月1回の振り返りを行い取り組みの見直しを行ってきました。

後の中間評価のタイミングでは評価計画を見直すことによって、事業の見直しもスタッフ間で行うことができ共通認識を持ち直して事業の効果を意識した取り組みにつながりました。

事後評価報告時の事業計画やロジックは、事前評価時点と比べ現実的な内容に変更されていることを実感します。

THEORY OF CHANGE

団体目的ビジョン

社会孤立のない住民参加型の地域として、誰もが尊重され高め合うことができる地域の創造
子ども・若者が未来の担い手として育まれ活躍できる地域の創造

中長期アウトカム

公営住宅を中心とした地域住民が社会から孤立せず、自助・共助・公助を活用し子どもや若者を育むことができている

短期アウトカム

協力団体、行政、企業による支援、助成金等を活用し居場所の開設

居場所を活用し、課題を抱える世帯の実態を団体が把握し、積極的なかかわりが持てる。

地域住民、協力団体等の協力による共助・互助の事業活動

会員の増員による会費の増収、協力団体、行政、企業等、賛助による事業運営

積極的な支援の関わりから人のつながりが生まれ、地域活性につながる。

子どもの孤食や固食等の予防に加え、保護者同士や高齢者が集い交流や情報交換、息抜きができる。

人とのつながりから、支え合いや高め合いの心、子ども・若者の自立的な思考や行動力を育む。

活躍の場ができることによって、外出の機会が増加し、社会とのつながりが持てると共に、スタッフとして頼られることから自己有用感の習得につながる。

社会と段階的につながる機会に加え、成功体験による自信の向上と、失敗体験による対策を検討する機会にできる。

必要な行政サービスの活用や就職、社会参画など、各々の課題が解決され、安心・安定的な生活が営めるようになる。

アウトプット

【調査】アンケートの実施

【体験（経験）】自然体験の実施

【体験（経験）】学習会の実施

【育成】スタッフとして起用

【育成】就労体験の実施

【支援】課題に応じた支援メニューの提供

地域住民が利用可能な居場所ができる。

地域住民の活躍が可能な場ができる。

地域にて各々の困りごとに対応した相談の場ができる。

【居場所】
子ども食堂やおしゃべり会を活用した居場所の提供
（子ども・保護者・若者・高齢者など）

【相談】
生活面・社会面・就労面など、総合的な相談ができる場の提供
（社会孤立者・就職氷河期世代・高校中退者など）

社会課題

公営住宅における低所得者層に付随する社会孤立・貧困・不就労等の問題がある
それらから派生する子ども・若者への影響及び負の連鎖の問題がある

環境整備・組織基盤強化

【人材】
団体スタッフがかかわり、生活困窮者、社会孤立者、就職氷河期世代、高校中退者などを、地域の人材として育成する。また、必要に応じて、他機関連携から専門家を活用する。

【設備】
協力団体による事業実施場所の提供及び物品支援などを受けると共に、事業の妥当性を検証し、必要に応じて行政に設備の無償提供を提案していく。

【資金】
団体会員の増員から会費の増収を実現すると共に、各種助成金の活用並びに協力団体や事業に賛同する個人、団体(企業)などを開拓する。

【情報】
団体が地域住民の思いや生活、社会情勢を含めた情報を積極的に収集することに努め、迅速に反応し、対応する。

中間評価から見えた
～実施状況の適切性～

- 利用者の意に反した取り組みになっていないかアンケート調査やヒアリング調査を実施し、常に利用者のニーズ把握に努めました
- アンケートの結果をスタッフ間で分析し、実施した取り組みの課題の洗い出しや次の取り組みの企画にいかしました
- その結果、９割の利用者から取り組みに満足している旨の回答が得られました
- 一方で、１割の利用者から取り組みに対する満足度が低い状況がありました
- スタッフ間で内容の共有を行い事業内容の検討を行い改善や工夫につなげました

（学習支援などにおいて参加者のレベルに応じた対象設定などを行いました）

中間評価から見えた
～実施をとおした活動の改善、知見の共有～

- 事業対象者のみならず、スタッフや協力者含め課題を収集し、その課題について当該月のスタッフMTGにて十分に検討し、改善につながるよう努めました。
- その結果、対象者が参加しやすいイベントの周知や価格及び対象者の設定、運営につなげることができました。
- また、各スタッフが得た知見については、当法人内の共有に留まらず関係機関との連携やネットワークの強化のツールとしても活用し、WEBを用いた情報発信にも努めました。

中間評価から見えた
～組織基盤強化・環境整備～

- 従前より課題である人材不足の解消や資金調達に関する検討を行ってきました
- しかしながら、飛躍的な改善に向けた行動にはつながりませんでした
- 理由としては、先にも述べたように専従スタッフが居ないなか、継続的かつ集中して人材や資金の調達に関して行動をおこなえるスタッフが存在しないこと
- 加えて、これまでより多額の助成金の交付を受けたことによって、取り組みの展開やそのことに伴う事務作業に労力を注ぐことになりスタッフの中に疲労感が生じたことが要因です
- 一方で、ボランティアの一時的な増加や当法人の規模に見合った資金調達の道筋は開けました
- 事業規模を大きくするのではなく当法人や地域の実状に応じた規模で事業に取り組むことの大切さに気づくことができました

事後評価～概要～

事業に取り組みたくさんの変化に出会いました。そのなかでも当法人がアウトカムに設定した「子どもの変化」「社会孤立状態にある若者の変化」「保護者及び地域住民の変化」を重要なポイントとして設定し評価を行いました。

評価測定は主に対象者に対するヒアリング、事業前後のアンケートなどに基づいて行ってきました。

その結果を元に、事業評価コーディネーターの助言やスタッフ間における検討会を開催し、多角的に価値判断できるよう努めました。

評価実施体制
（内部）西岡嘉裕 地域精通者/西岡徳実　社会福祉精通者/萩山 理恵 社会福祉精通者
　　丸山敏夫 教育精通者/前村 静香 オブザーバー
（外部）事業評価コーディネーター

事後評価～インプット～

①人材

契約当初の計画：内部１人　外部２人

実績値：内部５人　外部１人

②資機材

契約当初の計画：なし

実績値：テント、テーブル、DVDプレーヤー、PC、モニター、WEBカメラ、収音マイク

③経費実績

契約当初の計画金額：３，２５０，０００円（後にコロナ枠の追加助成１，０６４，５００円）

実際に投入した金額：４，８３４，６７８円

④自己資金

契約当初の計画金額：２５０，０００円（特例申請）

実績値：２５０，１７８円

資金調達で工夫した点：参加費を徴収、取り組みをWEBページ等で紹介し寄付を募る

事後評価～アウトプット～

①主な活動

子ども食堂・学習支援・郊外活動・伝統行事・就労体験・総合相談支援

②アウトプットの実績

A.地域住民にとって頼れる機能を備えた居場所ができ、住民同士のつながりが深まった状態になる。

子ども食堂（月1回）・自然体験会（年1回）・学習体験会（年1回）

指標：各事業の参加者数

事業前後のアンケート結果

初期値：子ども食堂（月1回・年間延べ600人）

自然体験（年3回程度・年間延べ90人）

学習会(未実施）

目標値：子ども食堂（月1回・年間600人）

自然体験（年1回・年間25人）

学習会（年1回・年間15人）

実績値

子ども食堂　月1回 合計33回実施 延べ1,545人

自然体験　年1回　合計2回 延べ78人

学習会　年1回　合計4回 延べ55人

目標達成時期：2023年2月

考察：各取り組みの場に度々訪れ会話を交わす人やこの場から相談会につながる地域住民がいました。そのことからも地域住民にとって憩いの場や住民同士のつながり、スタッフとのつながりを紡ぐことができたと考えます。

目標状態：　課題を抱える世帯を掘り起こし、各々の課題解決に向けた支援を提供し、解決の目途を立てるもしくは、解決した状態。

目標達成時期：2021年3月

事後評価～アウトプット～

B. ②地域住民がスタッフの役割などを担う活躍可能な場ができ、いきいきとした暮らしを送れる状態になる。子ども食堂（月1回）・自然体験会（年1回程度）・学習体験会（年1回）・就労体験会（年6回）・ボランティア体験会（年6回）

指標：各事業の参加者数／事業開始時と事業終了時に実施するアンケート結果の数値

初期値：子ども食堂（月1回）／自然体験（年3回程度）／学習会（未実施）・就労体験会（未実施）
ボランティア体験会（未実施）

目標値：子ども食堂（月1回・年間述べ人数24人）／自然体験（年1回・年間述べ人数2人）
学習会（年1回・年間述べ人数2人）／就労体験会（年6回・年間述べ人数12人）
ボランティア体験会（年6回・年間述べ人数12人）

目標状態：　各事業の機会を人材育成の場として活用し、育成される人が後の人生を、人とのつながりの元、豊かに過ごすことができる状態。

目標達成時期：2021年3月

実績値
子ども食堂の場　月1回 合計33回実施 延べ32人／　自然体験の場＋伝統行事の場　年1回ずつ合計5回 1人
学習会　年1回　合計4回 0人／就労体験会　年6回　合計18回　延べ4人／ボランティア体験会　年6回　1人
目標達成時期：いずれの体験会も目標値の達成に至りませんでした。
考察：相談会の場から対象者を発見する計画で取り組みを進めましたが、相談会の対象者は解決したい課題が改善された後につながり続ける必要性を感じてもらうことができませんでした。また、高齢の来談者も多く、設定した活躍の場は体力的に望まない状況が生まれたことも目標値に至らなかった理由のひとつと捉えています。

事後評価～アウトプット～

C.地域にて困りごとに対応した相談の場ができ、各々の抱える課題を解決に導いた結果、人としての尊厳が守られた状態や安心して地域で暮らすことができる状態になる。相談会（月2回程度）

指標：相談者数

抱える課題の解決度合い

支援終盤に実施するアンケート結果の数値

初期値：就労相談会（適宜・年2名程度）

初期状態：就労に特化しており、さまざまな課題に対応できる形式での実施ではない状態。

目標値：生活相談会（月2回程度・年間延べ6人以上）

目標状態：各々の抱える課題に応じた相談ができ、それらに対する助言、情報提供等を通じて、課題解決を図り、来談者が安心して暮らせる状態。

目標値達成時期：2021年10月

実績値

生活相談会：年12回程度　合計36回 延べ72人

目標達成時期：2021年10月

考察：生活全般について相談咳る場ができたことに加え、常時開催へ相談の機会が増加しました。そのことにより、些細なことでも相談に訪れる来談者が増え、ケースごとの課題解決につながった結果、暮らしのアンケートの回答からも見られるように8割の地域住民が住み続けたいと回答するように変化したと捉えました。

事後評価～アウトプット～

D. 地域住民が積極的に参加できる事業運営に取り組み、各々の心身豊かな暮らしの結果、個人が地域の担い手となり地域が活性された状態になる。

指標：各事業の参加者数／各事業の新規参加者数／各事業の新規スタッフ数

事業開始時と事業終了時に実施するアンケート結果の数値初期値：就労相談会（適宜・年2名程度）

初期状態：固定されたスタッフのみの関わりにより運営、実施している状態。

目標状態：地域に関係するさまざまな人材が関わり、当法人を地域の皆の法人として、運営する状態。

目標値達成時期：2023年4月

実績値

就労体験やボランティア体験の場以外の取り組みに関しては概ね目標人数の達成につながりました。また、新たにつながった対象者は34人であり、そのなかから取り組みに協力してくれる地域住民も10人増えました。

目標達成時期：2022年10月

考察：取り組みの数やボキャブラリーが増えたことにより、これまで訪れることのなかった地域住民も取り組みに参加する様子が見られました。その結果、当法人自体にも興味を持っていただけ「何かあれば手伝うよ」「こんなことしてはどう？」とともに検討できる関係が生まれたと考えます。

～団体に生まれた新たな嬉しい変化～

- 住民同士のつながり
- スタッフと住民とのつながり
- 地域のなかで役割の創出
- ボランティアの増加
- 他機関と協働による課題の解決
- 人・事業所・お寺などから協力者が増加
- ネットを介して興味を持つ人の増加
- 関係機関とのつながり
- 新たな資金調達先
- ハード面の充実

～団体に生まれた嬉しい変化や課題と対策～

〇嬉しい変化

- 事業評価を学び社会的インパクトを意識し事業に取り組めるようになった
- オンライン会議やオンライン研修に対応できるICT力が身についた
- さまざまな規程類の整備ができた
- 充実したサービスを利用者に提供できた
- 必要な機材をそろえることができた
- 限られたスタッフに業務が一極集中するのではなく分業することにつながった
- 法人のリーフレットやホームページ、PR動画ができた

〇課題

- 取り組みが増えスタッフが不足や疲弊

〇対策

- 新たな協力者を増やす＝社会発信することによって理解者を増やす
- 団体の限界を見極める＝取り組みの精査や他機関連携を行う

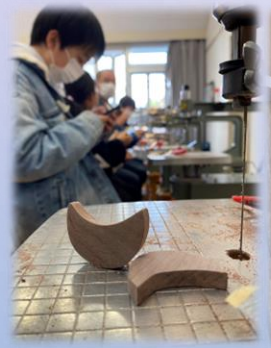
対象者に起きた変化
～スイスイ･子ども食堂～

- テイクアウトによるお弁当の提供を通じて新たな利用者をキャッチできた
- ヤングケアラー状態にある子どもへ食支援を通じて相談支援体制を構築できた
- 利用する子どもの保護者がボランティアとして加わった

毎月１回開催
- **33回実施**(内2回感染症拡大自粛要請のため未実施)
- **子ども延べ1,371人**　・**おとな延べ174人**　・**ボランティア延べ201人**

対象者に起きた変化
～パソコン学習・木工工作学習～

- 困りごとを発信する力が身に付いた（作業中にSOSを出すことができている）
- 困っている人を見つけて声をかけサポートすることができた（困っている人に自ら声掛けしている）
- パソコンに楽しく触れ合うことによって苦手意識の軽減につながった（楽しかったとの声）
- 友人や家族へのプレゼントを作るなど他者を思いやる気持ちが醸成された（実際の様子）
- 自己肯定感の向上（「できない」「わからない」が「できた」に変わった瞬間の様子）



学習会(年1回)
PC学習会
・子ども5人・おとな1人
・ボランティア2人
お箸作り
・子ども12人・おとな11人
・ボランティア7人

対象者に起きた変化
～クリスマスリース教室・バルーンアート教室～

- 子どもの自己有用感の向上(子どもがおとなに教える様子)
- 根気強さが身に付いた(繰り返しミスをしても最終達成できた経験)

学習会(年1回)

クリスマスリース教室
- 子ども4人　・おとな7人
- ボランティア2人

バルーンアート教室
- 子ども4人　・おとな6人
- ボランティア5人

対象者に起きた変化
～みかん狩り体験・郊外学習(ハーベストの丘）～

- 遠出をする機会や他世帯と出かける機会のない世帯が、出かける事の楽しさと大勢で過ごすことの心地良さを感じた(参加者の声)
- 不登校の子どもが思いっきり遊ぶことを通じて、また出かけたいと思うようになった(参加者の声)

自然体験(年1回)

みかん狩り＆BBQ
- 子ども21人　・おとな11人
- ボランティア4人

ハーベストの丘
- 子ども22人　・おとな15人
- ボランティア3人

対象者に起きた変化
～生活なんでも相談会～

- 不安定就労から脱却し安定就労に結びついた
- 雇用トラブルの仲介に入り他の事業所への転職が叶った
- 高齢のため歩行が困難になりひきこもりがちであったが車いすの提供を通じて出かける事ができるようになった
- 子どもの不登校について悩んでいたが相談を通じて気持ちが楽になった
- 身近な場に相談できる場所があることによって安心感を得ることにつながった
- 他機関と連携しケースの課題解決に取り組んだことによって、相互の連携強化につながった

〇生活なんでも相談(随時受付)
- 84回実施
- 相談者数延べ45人
- 専門家延べ26人
- ボランティア5人

〇縁づくりプロジェクト
- 1回　・相談者２人　・食支援56人
- ボランティア５人

〇就労体験会
- かしままちなみスッキリ作戦体験
- 子ども食堂スタッフ体験
- 草刈り体験

対象者に起きた変化
～その他～

- コロナ禍で外出の機会が減少していた高齢者の出番を設けることで、生き生きと過ごすことにつながった
- 100年続く伝統行事を他世代で取り組むことによって、伝統の継承や地域住民同士のつながりが紡ぎなおされた
- 家族だけでない相談相手が地域のなかにできた
- 参加者からボランティアスタッフを希望する人が出た
- 近隣の地域からも当法人に興味を持ってもらえるようになった

研修受講 ～人材育成～

・組織づくり・人づくりを共に考える
・子どもの居場所サポート講座衛生講習会
・企業と子どもの居場所共創フォーラム
・評価研修(評価の基礎・中間評価)
・コロナ禍における子ども食堂のあり方について
・ファンドレイジング研修
・内外の関係性の作り方とそのツール
・広報のいろは
・NPO法人の会計研修
・会計出張講座(2回)
・他団体視察
・事業企画の立て方

事後評価から見えた
～成果の達成度～

〇子どもの孤食や固食等の予防に加え、保護者同士や高齢者が集い交流や情報交換、息抜きができている

子ども食堂はスタッフである栄養士が中心となり、栄養バランスの取れたメニューで提供しています。おかわりをする子どもも多くいます。利用者は事業開始前と比べ平均20人程度増加し、毎回80人近くが参加しています。また、会場で実施したアンケートでは、参加している子どもの95%が「家族と食事を摂る」と回答しており、多くの子どもが孤食の状態にないことがわかりました。

子ども食堂やイベント会場では、保護者や高齢者がスタッフと話したり、参加者同士で話したりして過ごす様子が見られました。実施したアンケートでは、37.0%の地域住民があいさつをする程度の関係であり、立ち話や困りごとの相談ができる関係にある地域住民は59.2%でした。

概ね短期アウトカムの達成に至ったと捉えています。

〇人のつながりから、支え合いや高め合いの心、子ども・若者の自立的な思考や行動力を育む

創作活動や学習会など協働で取り組む機会のアンケートでは、54.0%の子どもが、「わからない部分をサポートしてもらった」と回答しており他者をサポートすることや競い高め合う心を育むことにつながりました。

また、郊外学習の場では、自ら何を選択し遊ぶか考えるなど、初めての場でも臆することなく自立的に行動する様子が見られました。一方で、自立的な思考については、十分に育まれたと言えるデータの取り溜めができていませんでした。今後の課題として追跡調査をおこないたいと考えています。

〇活躍の場ができることによって、外出の機会が増加し、社会とのつながりが持てると共に、スタッフとして頼られることから自己有用感の習得につながる

生活相談事業や生活困窮者自立支援事業との連携により、社会孤立状態にある2人へ社会参画の場の提供ができました。この場を通して、社会性を身につけることや継続して通うこと、この場以外の場へ出かけることや他者とのコミュニケーション力の向上などの変化が見られました。

事後評価から見えた
～成果の達成度～

〇社会と段階的につながる機会に加え、成功体験による自信の向上と、失敗体験による対策を検討する機会にできる

先の生活相談事業や生活困窮者自立支援事業による誘導から対象者の受け入れを行いました。受入前から対象者の状態に応じた配慮ができるよう対象者について相談員から情報提供を受け、その情報に基づき取り組む内容や関わり方の共有をスタッフ間で行いました。受入後は、対象者の状態に応じ相談員が同行するパターンと対象者のみで参加するパターンに分けて取り組みました。作業の丁寧な説明やできそうなことから取り組み成功体験から喜びを感じてもらうことを意識して取り組みました。時に難しいことにも挑戦して頂きながらできないことも全て受け止め、安心感からラポールの形成につながるよう努めました。
その結果、開始当初は何も話さなかった人が話すようになったり、意見を言うようになったり、笑顔が増えるなどの様子が見られました。失敗した際は、謝り挽回する方法を知るなどした経験から社会に対する不安の払拭につながりました。

〇行政サービスの活用や就職、社会参画など、各々の課題が解決され、安心・安定的な生活が営めるようになる

生活相談などを通じて、相談ケースごとの課題に取り組みました。例えば、転職を希望するが事業所から認めてもらえない等のパワハラ問題について悩む来談者の話を受け、雇用主へ直接連絡し事実確認と問題を提議しその後の出社をしなくて良いように手続きを踏みました。その後、他の事業所への見学に動向や面接の仲介に入ることから再就職に結びつくことにつながりました。その他のケースにおいても積極的な介入を行い、3年間で5人の就職が実現しました。
また生活に密着した相談では、感染症に伴う支援金の給付補助や居宅内のインターネット回線の復旧など細かな困り事にも柔軟に対応し、課題解決を図ることによって安心して暮らせる環境を提供し、くらしのアンケート調査でも地域で暮らし続けたいと回答する人が8割の状態になりました。

〇公営住宅を中心とした地域住民が社会から孤立せず、自助・共助・公助を活用し若者を育むことができている

地域住民が社会から孤立しない状態は、戸別訪問やイベントの場の活用を通して、全ての住民とつながる効果を得ることができたと実感しています。
また、自助・共助・公助についてもケースに応じて柔軟に相談対応することから成果が上がっていると捉えています。しかしながら、若者を育むとの点は、十分な成果を得たと言える状況にありません。日中勤める若者も多く、今後、若者が参画しやすい時間帯や企画に取り組み継続して育む機会の創造に取り組む必要があります。

事後評価から見えた
～事業実施プロセスの適切性～

事業のプロセスについては、助成事業取り組み時点から課題がありました。応募時に企画提案した内容について、スタッフ間において十分にアウトプットやアウトカムの協議が成されていないまま事業が走り出す形となりました。

先に述べた状況にありながらも概ねアウトカムの達成に至った成功要因は、合意形成を図ることの重要性を意識し事業開始後、スタッフ間の共有や議論、検討を重ねながら事業に取り組んだためだと捉えています。

さらに対象者視点を最重要事項に据え置き事業計画の再検討、改善に努めたことが功を奏したと捉えています。

一方で課題として、毎月行う定例会の場において事業に取り組むことに注視し過ぎ、組織基盤についての協議が十分に行えない状況にありました。今後、定例会においては、事前に「事業について」「法人について」時間の比率を設定し取り組むことによって、バランスよく検討をおこない事業の継続に努めていく確認を行いました。

事後評価から見えた
～事業実施の妥当性～

- 対象者を限定し過ぎない取り組み方法によって、広く色々な子どもに参加してもらうことができました。その結果、課題がある新たな世帯の発見につながることや普段学校や家庭で見ることができない子どもの様子をうかがうこと、何かあれば相談に来てもらえる関係の構築にもつながりました。

- 当法人が取り組む事業にとって重要と判断する事柄は「誰一人取り残さない取り組み」であり続けることです。上記のように対象を絞らないことによって、参加したいと思う子どもやおとなが参加でき、参加している際の様子から困りごとの発見につながるようしっかり関わる姿勢に努めます。

- また、前述でも記載しましたが、対象者の視点から事業の改善を行い取り組みの中心に対象者を置くことを重要とします。

外部との連携の実績

主に子ども食堂に関する連携が中心となりました。

口コミやWEBページなどから子ども食堂の取り組みに共感をいただき「ぜひ参加したい」「どのような取り組みか実際に見てみたい」そのような思いからボランティアスタッフとして調理や配膳、片付けなどともに取り組んでいただきました。

また、近隣の企業様やお寺などから「子どもたちに喜んで欲しい」と、子どもたちへ贈るお菓子を毎回提供いただいたり、お弁当を不定期に提供していただきました。

これまで同様ふーどばんくOSAKAとの連携も行ってきましたが、近隣地域に協力者が増えたことにより、連携の頻度もやや減少したように実感しています。
このことは、当法人が自立的かつ地域の皆様と子ども食堂の運営を進めていく、ポイントになると捉えています。
さらに当法人がふーどばんくOSAKAから食糧の提供を受けないことによって、他の支援団体にその分の食糧が渡ると考えると波及的な効果を感じます。

外部との連携の実績　～連携先一覧～

・株式会社三菱UFJ銀行
・宗教法人正恩寺
・株式会社マルハン
・大阪市社会福祉協議会
・淀川区社会福祉協議会
・認定NPO法人ふーどばんくOSAKA
・淀川区こども居場所ネットワーク
・大阪府立東淀川工業高校
・テラコヤ+
・まちづくり研究会
・がんこフードサービス株式会社
・一般社団法人淀川人権文化協会
・大阪市立加島小学校
・大阪市立美津島中学校
・大阪市子ども青少年局
・ボランティア市民活動センター
・ひとり親家庭福祉連合会
・大阪府玩具・人形問屋協働組合連合会
・フォトグラファーSUBARUさん
・こどものSOSを大切にするために
・株式会社壱番屋

アウトカムの達成度

【短期アウトカム①】子どもの孤食等の予防ができている

【指標】厚生労働省 平成26年度全国家庭児童調査結果

【初期値】一週間の内、家族そろって一緒に食事をする日数が平均4日

【目標値】一週間の内、家族そろって一緒に食事をする日数が平均5日

【目標達成時期】2021年3月

【アウトカム発現状況】

・アンケート調査の結果、子ども食堂を利用する子どものうち8割が平均5日以上家族と一緒に食事ができている

・友達と誘い合って子ども食堂に来ることができている

・家庭の様子を子どもが話してくれている

アウトカムの達成度

【短期アウトカム②】保護者や高齢者が集い交流や情報交換、息抜きができている

【指標】子ども食堂を利用する子の保護者や地域の高齢者が顔見知りになり会話できているか

【初期値】挨拶する程度の関係

【目標値】子ども食堂を利用する子の保護者や地域の高齢者が顔見知りになり会話できている

【目標達成時期】2021年3月

【アウトカム発現状況】

・保護者同士や保護者とスタッフが笑顔で会話できている

・保護者がスタッフに対し悩み相談ができている

・高齢者が伝統を子ども達に伝えることができている

アウトカムの達成度

【短期アウトカム③】地域の子どもたちが失敗できる場がある

【指標】当法人の取り組みのなかで失敗を経験し学びを得ているか

【初期値】失敗することをいけないことだと思っている

【目標値】失敗してもいいのだと思えるようになっている

【目標達成時期】2021年10月

【アウトカム発現状況】

・木工作業を通して難しさにつまづきながらも他者にSOSを発信できている

・間違った行動を取った友達を排除せず誤りを反省できる働きかけができている

・失敗した際に落ち込むこともあるが気持ちを立て直す事ができている

アウトカムの達成度

【短期アウトカム④】社会孤立者が段階的に社会とつながれている

【指標】社会孤立状態にある方が社会につながろうと行動を起こせているか

【初期値】社会とつながる機会が相談窓口のみ

【目標値】相談窓口以外の他者と話したり作業したりできている

【目標達成時期】2020年10月

【アウトカム発現状況】

・就労体験やボランティア体験に参加できている

・スタッフとの会話や意見する事ができている

・継続的にイベントへの参加ができている

アウトカムの達成度

【短期アウトカム⑤】社会孤立者の自信が成功体験を通じて向上している

【指標】社会孤立状態にある方が成功体験を実感しているか

【初期値】自身に期待をせず自信を失っている

【目標値】相談窓口以外の他者と話したり作業したりできている

【目標達成時期】2020年10月

【アウトカム発現状況】

・自ら進んで作業に取り組む様子が見られる

・他者に相談しながら体験に取り組んでいる

・スタッフから頼られる存在になっている

アウトカムの達成度

【短期アウトカム⑥】低所得者が安心・安定的な生活を営めるようになっている

【指標】増収や相談から課題解決につながっているか

【初期値】未就労やひとりで悩みを抱えている

【目標値】就労の実現や相談窓口に訪れ課題解決に向け行動できている

【目標達成時期】2022年2月

【アウトカム発現状況】

・希望の就職を叶え半年以上職場定着している

・相談窓口を通じて課題解決に向けた行政窓口とつながっている

・地域住民同士で相談ができる関係を築けている

成功要因

取り組みのなかでも参加者が多い子ども食堂については、2つの社会問題解決に貢献したと自負しています。

当法人が実施する子ども食堂は、あえて対象を絞らないことによって「参加者生活になんらかの困難がある」等の偏見が起きないように努めています。

その結果、事業開始前に比べ毎回20人近い増加が見られ毎月80人の子どもや保護者に食の提供ができました。

特にコロナ禍にあっても食の提供ができるよう提供方法をテイクアウトに変更することや、生活用品や調味料などの提供も不定期で行いました。

このことはコロナ禍により生活費が圧迫された世帯に対し、僅かでも生活の支えになったと捉えています。

また食の提供は当法人にとって、地域住民とつながるためのツールです。このツールを用いて、今回、公立高校のスクールソーシャワーカーとつながることができ、ヤングケアラー状態の学生の世帯に対する食の提供及び相談支援に関する情報提供に至りました。また当事者である学生と直接お会いし、いつでも拠り所にしてもらえるよう24時間連絡がつながる連絡先を提供し困り事を発信してもらえる関係づくりに努めました。

このことは家庭の事情で十分に学べない、余暇を謳歌できないなどの状況を緩和する一助につながったと捉えています。

課　題

当該事業の一部である困窮者の社会参画やスタッフの担い手になる人材育成については、対象者の数が当初の想定数を下回りました。その一因として対象者を誘導するための相談事業や他機関との連携、アウトリーチに十分な時間を割くことができなかったことがあげられます。

さらに、困窮者のニーズを把握することについてもずれが生じていたように考えます。対象者に応じた配慮をおこない取り組みを進める準備をしていましたが、そもそも事業開始の前段階で新たな場や人につながることへの不安感に寄り添うための事業利用前のつなぎ部分が重要であり、その点を踏まえていなかったことが課題になったと捉えています。

これらの課題は、事業計画の見直しや他機関との密なる連携を通じて改善が可能な事象であるため、事業継続時に改選して取り組みを展開していきます。

結　論

今回、本助成金に取り組んだことによって当法人には通常の倍以上の資金が投入されました。

そのことを通じて、これまで整備できなかった物理的設備の整備、ボランティアに対する必要最低限の有償、何より地域住民への多数の取り組みの提供に至りました。

これまで地域課題として捉えてきた「社会孤立」「生活困窮」「不就労」が社会課題として妥当であるか調査し直す機会を得、公営住宅特有の実情を把握することにつながりました。

課題の渦中にいる対象者のニーズについても、調査を行う機会となり「他者とつながりたい思い」が声にも数値にも現れ、自信と確信を持って事業に取り組むスタッフ間の決意につながりました。

事業開始後は、常に取り組みの振り返りを重ねスタッフ間で協議し対象者視点で事業が進んでいるか、方向性にブレはないか、対象者に対する毎度のアンケート等を含めて確認をしながら進めてきました。

当初設定したアウトカムを変えることなく、アウトプットの変更を恐れず改善しながら、スタッフだけでなく対象者や協力者を巻き込んで事業を進めていくことが重要であると実感しました。

バルーンアート教室　参加者アンケート

1.何歳ですか

年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数
0～6	0	16～18	0	30～39	2	60～	0
7～12	3	19～22	0	40～49	3	無回答	2
13～15	1	20～29	0	50～59	0		

2.以前から「ものづくり」をしたいと思っていましたか

選択肢	人数	選択肢	人数
とても思っていた	4	あまり思っていなかった	0
思っていた	7	全然思っていなかった	0

3.普段「ものづくり」をすることはありますか

選択肢	人数	選択肢	人数
ある	1	ほとんどない	2
ときどきある	5	ない	3

4.ものづくりをしてみていかがでしたか（複数回答可）

選択肢	人数	選択肢	人数
楽しかった	11	難しかった	2
勉強になった	5	おもしろくなかった	0
自信がついた	2	その他	0

5.ひとりで作れましたか

選択肢	人数
作れた	5
手伝ってもらった	6

6.またものづくりをしたいと思いますか

選択肢	人数	選択肢	人数
とてもしたい	6	あまりしたくない	0
したい	5	全然したくない	0

7.他にしてみたいことはありますか

選択肢	人数	選択肢	人数
おしごと体験	5	お花見	5
遠足	5	料理作り	7
海水浴	8	BBQ	6
その他	4		

その他：
・流しそうめん
・写真撮影
・陶芸

CAPプログラム
「自分の心と体を守るために」参加者アンケート

1.参加動機

友達が参加している	10
親に言われた	5
昼食付	4
自分のためになると思った	5
その他	

2.参加してみて感じたこと

楽しかった	9
難しかった	1
その他	2

その他
・ちょっとむずかしかった
・べんきょうになった

3.参加の前後に起きた変化

自分を大切だと感じた	10
友達を大切だと感じた	8
家族を大切だと感じた	8
何も変わらなかった	
その他	1

その他
・さいしょはかんたんなのかなと思ったけど、おわったあとは、むずかしかった

4.同じようなイベントに参加したいと思うか

参加したい	11
参加したくない	
どちらでもない	

5.他に希望のイベントはあるか

祭り	8
お出かけ	4
モノづくり	2
勉強会	1
スポーツ	4
その他	2

その他
・さっかあたいかい
・あそび

6.意見や伝えたいこと

・かぞくやじぶんとかたいせつにする
・あらためて自分のことを大切にしたいと思いました
・またしたい
・こんなやつはじめてくれてありがとうございます

木工工作（お箸作り）学習参加者アンケート

1.以前から「ものづくりをしたい」と思ってましたか

・とても思っていた（8）

・思っていた(8)

・あまり思っていなかった(5)

・全然思っていなかった(1)

2.普段「ものづくりをすること」はありますか

・ある(7)

・ときどきある(5)

・ほとんどない(6)

・ない(4)

3.ものづくりをしてみていかがでしたか（複数回答）

・楽しかった(19)

・勉強になった(6)

・むづかしかった(3)

・面白くなかった(0)

4.ひとりで作れましたか

・作れた(9)

・作れなかった(13)

5.またものづくりをしたいと思いますか

・とても作りたい(14)

・作りたい(7)

・あまり作りたくない(0)

・全然作りたくない(1)

6.他にしてみたいことはありますか

・お仕事体験(6)

・遠足(10)

・海水浴(5)

・お花見(9)

・料理作り(12)

・BBQ(10)

・その他（手芸①、陶芸②、織物②、染色②、あまりない①、TVゲーム大会①）

2020年度 くらしのアンケート

対象者数:186件　実施方法:戸別配布後自主提出　回答状況:27件

1.年齢　2.性別

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
女　性	1	3		2	7	5	18
男　性	1	1	2		2	2	8
その他						1	1
計	2	4	2	2	9	8	27

3.世帯

高齢単身	12	夫婦のみ	2	その他	1
単身	4	高齢夫婦	2		
夫婦と子	4	母子父子	2		

その他理由：夫婦と親

4.就労形態

無　職	15
勤労者	6
パート・アルバイト	4

5.主な収入

年　金	17
給　与	8
その他	2

その他理由：年金と給与なし

6.居住年数

出生から	2	10～20年	9
2～5年	3	20～30年	2
5-10年	1	31年以上	10

7.継続居住の意思

住み続けたい	20
引越したい	1
わからない	6

8.近所付き合いの程度

挨拶程度	10
立ち話し等	9
困りごとの相談	7
無回答	1

9.困りごと時かけつけてくれる人

いる	25
わからない	2

10.さみしさを感じる

感じる	3
感じない	24

11.孤独死を身近に感じる

感じる	17
感じない	9
無回答	1

12.地域活動について

	知っている	参加したことがある	無回答
東之町会老人会おしゃべり会	15	7	5
スイスイ子ども食堂	2	2	1
ふれあい農園交流(田植え・稲刈り)	18	4	5
東之町会公園清掃	13	10	4
かしままちなみスッキリ作戦	16	9	2
加島地域敬老会	20	5	2
加島地域住民運動会	16	8	3
加島地域ふれあい喫茶	17	2	8
加島地域社会を明るくする運動	15	2	10
加島地域防災訓練	15	7	5

2022年度 くらしのアンケート

対象者数:186件　実施方法:訪問による聞き取り　回答状況:166件

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	男	43	25.9%
2	女	123	74.1%
3	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	人	83	50.0%
2	人	57	34.3%
3	人	13	7.8%
4	人	11	6.6%
5	人	1	0.6%
6	人	1	0.6%
7	人	0	0.0%
8	人	0	0.0%
9	人	0	0.0%
10	人	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	住み続けたい	138	83.1%
2	引っ越しをしたい	4	2.4%
3	わからない	24	14.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	困りごとを相談し合える程度	31	18.7%
2	立ち話や世間話・情報交換する程度	58	34.9%
3	顔を合わせた時にあいさつする程度	66	39.8%
4	近所づきあいはしていない	7	4.2%
5	近所づきあいに関心はない	3	1.8%
	無回答	1	0.6%
	合計	166	100.0%

表.もしもの時に駆けつけてくれる人

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	いる	138	83.1%
2	いない	19	11.4%
3	わからない	9	5.4%
	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	15歳以上～20歳未満	0	0.0%
2	20歳以上～25歳未満	0	0.0%
3	25歳以上～30歳未満	4	2.4%
4	30歳以上～35歳未満	1	0.6%
5	35歳以上～40歳未満	6	3.6%
6	40歳以上～45歳未満	5	3.0%
7	45歳以上～50歳未満	11	6.6%
8	50歳以上～55歳未満	9	5.4%
9	55歳以上～60歳未満	9	5.4%
10	60歳以上～65歳未満	9	5.4%
	小計	54	32.5%
11	65歳以上～70歳未満	19	11.4%
12	70歳以上～75歳未満	38	22.9%
	小計	57	34.3%
13	75歳以上～80歳未満	27	16.3%
14	80歳以上～85歳未満	17	10.2%
15	85歳以上～90歳未満	6	3.6%
16	90歳以上	5	3.0%
	小計	55	33.1%
0	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	生まれた時から	42	25.3%
2	2年以内	10	6.0%
3	2～5年前頃から	8	4.8%
4	5～10年前頃から	5	3.0%
5	10～20年前頃から	19	11.4%
6	20～30年前頃から	8	4.8%
7	30年以上前から	74	44.6%
	無回答	0	0.0%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	高齢者が増え、高齢化が進んでいる	136	81.9%
2	若い人や子どもが少なく、地域に活気がなくなってきたように感じる	106	63.9%
3	例にこもりや孤立している住民が多くなったように感じる	47	28.3%
4	転居や入居する人が増加しているように感じる	88	53.0%
5	近所の人々との親交を深められる機会が不足しているように感じる	60	36.1%
6	地域に対する親近感が薄まっているように感じる	61	36.7%
7	空き家が増加しているように感じる	71	42.8%
8	地域で孤立死といったことをよく耳にするようになった	38	22.9%
9	特に変わったとは思わない	12	7.2%
10	わからない	16	9.6%
11	その他	3	1.8%
	無回答	1	0.6%
	合計	639	-

表.孤独死を身近に感ずるかの有

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	感じる	84	50.6%
2	感じない	80	48.2%
	無回答	2	1.2%
	合計	166	100.0%

表.普段さびしいと感じる

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)	A 件数
1	感じる	37	22.3%	50
2	感じない	128	77.1%	140
	無回答	1	0.6%	8
	合計	166	100.0%	200

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	困りごとを相談し合える程度	31	18.7%
2	立ち話や世間話・情報交換する程度	58	34.9%
3	顔を合わせた時にあいさつする程度	66	39.8%
4	近所づきあいはしていない	7	4.2%
5	近所づきあいに関心はない	3	1.8%
	無回答	1	0.6%
	合計	166	100.0%

	項目	A-4.加島 件数	A-4.加島 構成比(%)
1	現在、働いている(仕事をしている)	62	37.3%
2	現在、働いていないが、仕事先は決まっている	1	0.6%
3	現在、働いていないが、仕事先を探している	8	4.8%
4	働きたいが、病気などで働けない	19	11.4%
5	現在、働いていないし、今後も働くつもりはない	72	43.4%
6	その他	3	1.8%
	無回答	1	0.6%
	合計	166	100.0%

広　報（イベントチラシ）

自然体験　堺・緑のミュージアム

ハーベストの丘へ行こう

夏休みは楽しく過ごせましたか？夏休みが終わっても暑い日が続いていますが、今年はみなさんとハーベストの丘へ遊びに行きたいと思います。

広い野原で思いっきり走ったり、みんなでバーベキューを楽しんだり、オカリナを作ったりして楽しみませんか？　ぜひ、お友達を誘ってご参加ください。

※子どもだけの参加はできません。

【日にち】　２０２２年１０月２日（日曜日）
【場所集合】　コミュニティかしま
【集合時間】　午前９時
【参加費・昼食費込み】
未就学（無料）・小中学生 500円・高校生以上 1,000円
【行き先】　堺・緑のミュージアム「ハーベストの丘」
【帰り時間】　午後４時
【申込方法】　申込書と参加費を合わせて、コミュニティかしままで持ってきて下さい。
【しめきり】　９月２７日（火）まで

本事業は、特定非営利活動法人スイスイ・すていしょんが、(一財)大阪府地域支援人権金融公社の実施する2020年度ひと・まち・げんき助成事業を活用して実施しています。

○お問合せ先○　特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん　電話：06（6309）0404

--✂--きりとり--✂--

申込書（もうしこみしょは、かならずおとなのひとにかいてもらいましょう）

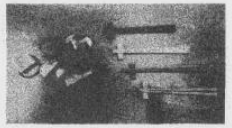
お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
連絡先		

マイお箸と小物を作ろう

NPO スイスイ・すていしょんでは、下記の要領で「手しごと」の楽しさを体験する「箸づくりの」講習をおこないます。

自分のお箸を自分で作ってみませんか！！

作る物　お箸２膳　小物２個



日時　2021年12月11日（土）午前10時 ～ 午後3時30分

場所　かしま中住宅 3号館 集会所

教えてくれる人　大阪市立クラフトパーク職員の皆さん（5人）

募集人数　約20名　小・中学生および付き添いの保護者

500円／人　（材料費＋昼食代の一部）当日会場でお願いします。昼食はカレーを用意します。

申し込みと締切り　申し込みは裏面の申込書に記入し下記のところに出してください。

コミュニティかしま　淀川区加島1－49－25
TEL:　06－6309－0404

★ 保険に入るので、申込書に必ず住所、氏名、生年月日、連絡先を記入してください。

締切り：　11月19日（金）

備考
※ この事業は大阪市立クラフトパークの出前体験事業として行われます。
※ この事業は休眠預金事業「ひと・まち・げんき」の助成を受けて行われます。

※ 申し込み用紙は裏面です！

自然体験

みかんがり

少し寒い季節になりました。今年は、思うように友達と遊ぶことができないことや、色々なイベントが中止になり、みんなにとって残念な出来事が多かったかもしれません。

そんな時だからこそNPO法人スイスイ・すていしょんでは、みんなと大空の下、元気に自然を体験しようと「みかんがり」を企画しました。

ぜひ、ご参加ください。　**※子どもだけの参加はできません。**

【日にち】　２０２０年１１月１５日（日曜日）
【場所集合】　コミュニティかしま
【集合時間】　午前９時
【参加費・昼食費込み】
未就学（無料）・小中学生 500円・高校生以上 1,000円
【行き先】　富田林市農業公園サーバーファーム
【帰り時間】　午後４時
【申込方法】　申込書と参加費を合わせて、コミュニティかしままで持ってきて下さい。
【しめきり】　１０月３０日（金）まで

本事業は、特定非営利活動法人スイスイ・すていしょんが、(一財)大阪府地域支援人権金融公社の実施する2020年度ひと・まち・げんき助成事業を活用して実施しています。

○お問合せ先○　特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん　電話：06（6309）0404

--✂--きりとり--✂--

申込書（もうしこみしょは、かならずおとなのひとにかいてもらいましょう）

お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
お名前		※どちらかに○をつけてください。未就学 ・ 小中学生 ・ 高校生以上
連絡先		

みんなあつまれ　加島はひとつ！

緊急事態宣言中は清掃も中止です！

かしま　まちなみ　スッキリ作戦！

ごみを集めて、みんなで加島のまちをスッキリさせましょう！

清掃終了後に、交流会をおこないます。

☆ 日時

11月23日(火・祝)　9：30～12：30頃

＊ 小雨決行 ⇒ 午前9時に判断します。

☆ 集合場所

コミュニティかしま

お問い合わせ先 ： 特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん　電話　06(6309)0404

本事業は、NPO スイスイ・すていしょんが、休眠預金活用事業を活用して実施しています。

広　報（イベントチラシ）

CAP プログラム
～子どもが自分の心とからだを守るために～

これまで特定非営利活動法人スイスイ・すていしょんでは、子ども食堂をはじめとするさまざまな楽しみの場、体験の場、学びの場を子ども達に提供してきました。
今回は、すべての人にとって大切な人権をアメリカで誕生した CAP プログラムを用いて劇などを通し、子ども達が学ぶ機会を提供します。
いじめ・虐待・体罰・誘拐・性暴力など様々な暴力から自分の心とからだを守る暴力防止のための予防教育プログラムに子ども達のご参加をお待ちしています。

バーベキュー付き

日 に ち　１月２８日(土)
時　　間　〔CAP プログラム〕午前１０時００分～午前１１時３０分
　　〔バーベキュー〕午前１１時３０分～１３時頃
場　　所　加島中住宅３号館 集会所
参 加 費　〔子ども〕無　料
　　〔おとな〕５００円（バーベキューのみ参加可能）
対 象 者　小学１年生～小学３年生
申込方法　下記の申込書に必要事項を記入しコミュニティかしま(加島１丁目 49-25)まで持参頂くか、お電話(06-6309-0404)にてお申込みください。

本事業は、特定非営利活動法人スイスイ・すていしょんが、(一財)大阪府地域支援人権金融公社の実施する 2022 年度ひと・まち・げん活助成事業（休眠預金活用事業）を活用して実施しています。

○お問合せ先 ○　特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん　電話：06（6309）0404

--✂--きりとり--✂--

申込書

お名前		学年	
連絡先			
参加希望	① CAP プログラムのみ ② CAP プログラムとバーベキュー（参加するおとなの人数 ___人		

じっくり相談会

せいかつ 生活　いくじ 育児　しごと お仕事

予約制　相談無料

日常生活のなか、「困ったな…」「どうしよう…」「誰に相談すれば…」と、ひとりで悩みを抱えていませんか？
2020 年度より、NPO 法人スイスイ・すていしょんでは、コミュニティかしま近隣にお住いの皆さんの困りごとを、共に考え、解決に向けた情報提供やお手伝いを実施します。
相談内容は、相談員とご本人以外に漏れることはありません。安心して、どのようなことでも、一度ご相談ください。

利用方法（完全予約制）

事前にお電話にてお申し込みください。

申し込み先	電話番号	担　当
スイスイ・すていしょん	06（6309）0404	西岡
ヒューマンワークアソシエーション	06（6581）8781	前村

※コミュニティかしまでは、直接お申し込みも頂けます。

利用時間

原則、平日の受付となります。

曜　日	時　間	担　当
月曜日～金曜日	９時３０分～１６時００分	小野寺
土曜日・日曜日	１０時００分～１２時００分	

※夜間の相談対応は、要相談。

相談場所

曜　日	場　所
月曜日～金曜日	コミュニティかしま ２階 会議室
土曜日・日曜日	随時調整

【お問合せ先】NPO 法人スイスイ・すていしょん（06-6309-0404）

本事業は、NPO 法人スイスイ・すていしょんが、(一財)大阪府地域支援人権金融公社の実施する 2020 年度 ひと・まち・げん き助成事業を活用して実施しています

ばるーんあーと体験教室

すこしあつくなってきましたが、みなさんげんきにすごしていますか？
スイスイ・すていしょんでは、まいつきのこどもしょくどうだけでなく、おでかけやものづくり、がくしゅうかいもよていしています。
こんかいは、みんながだいすきな「ふうせん」をつかって、いろいろなものをつくります。おともだちをさそって、ぜひ、ごさんかください！

【ひにち】 ２０２２ねん７がつ２３にち（どようび）

【ばしょ】 かしまなかじゅうたく３ごうかん

【じかん】 ごぜん１０じ～１１時

【さんかひ】 １００円

【たいしょう】 しょうがく１ねん～６ねん

【もうしこみ】おとなのひとに、したのもうしこみしょをかいてもらい、おかねとあわせておとなのひとに、コミュニティかしままでもってきてもらってください。

○お問合せ先○
特定非営利活動法人スイスイ・すていしょん
電話：06（6309）0404

本事業は、特定非営利活動法人スイスイ・すていしょんが、(一財)大阪府地域支援人権金融公社の実施する 2022 年度ひと・まち・げん活助成事業を活用して実施しています。

--✂--きりとり--✂--

申込書（もうしこみしょは、かならずおとなのひとにかいてもらいましょう）

お名前		学年	
お名前		学年	
お名前		学年	
連絡先			

広　報（法人紹介リーフレット）

特定非営利活動法人
スイスイ・すていしょん　設立趣意書

●現在、社会にはさまざまな差別や不平等が存在しています。教育や福祉においても階層格差が拡大する中で、家庭の階層差による「教育不平等」がますます広がりつつあります。特に教育における格差は生涯にわたり影響を及ぼし、次の世代に引き継がれ、「階層社会・日本」を拡大再生産しています。そこからいじめ、自死、不登校、犯罪の若年化など、さまざまな教育課題が生み出されています。

●人権教育には、**「人権のための教育」「人権としての教育」「人権を通じての教育」「人権についての教育」**という４つの側面があると言われます。
これらを実現するためには地域に根ざした総合的な取り組みがもとめられています。

●わたしたちは、地域・社会の人権・教育・福祉課題を重視し、人と人とが出会い、つながりあい、子どもから高齢者までのさまざまな世代がそこから世界にはばたいていく**「駅」**、だれもが安心して「ありのままの自分」でいられる**「居場所」**、地域発の人権文化を社会に広げていく**「発信基地」**としての**「ステーション」**でありたいと思います。
そして、これまでの確かな成果と真摯な総括をふまえ、部落解放と自己実現というテーマに関して、地域における人権・教育・福祉コミュニティ、ネットワークづくりを推進する事業をおこなうことを通して、水平な社会の実現をめざします。

●わたしたちがめざす「水平な社会」とは持続可能な社会であるはずです。その実現を担おうとする組織には、単なる個人の意思や職務を超えた、持続可能な基盤と形態が求められます。

●わたしたちは、一人ひとりの自発的な意思を大切にしながら、法人格を取得することにより活動基盤を確固たるものとし、未来への責任と義務を自らに課し、出発します。

スイスイ・すていしょんの由来は…

スイスイ
水平な社会づくりを推進する
激動の時代、困難な状況に
めげずスイスイと

＋

すていしょん
駅
人と人とが出会い、全国につながる
居場所
誰もが安心してくつろぐ事が出来る
発信基地
人権文化、情報、政策提言の
発信

特定非営利活動法人
スイスイ・すていしょん

事務局
〒532－0031
〒大阪市淀川区加島1-49-25コミュニティかしま内
TEL.06-6309-0404　FAX.06-6304-2474

特定非営利活動法人
スイスイ・すていしょん

人権と教育の営みを通して、
水平な社会づくりを推進する！

OSAKA YODOGAWA KASHIMA

人権と教育の営みを通して、
水平な社会づくりを推進する！
特定非営利活動法人
スイスイ・すていしょん

この法人は、2004 年に「特定非営利活動促進法」に基づき、部落解放をめざす人権、教育運動から生まれました。

わたしたちは、次のような目標をもって活動を進めています。
1) 人権が大切にされる街づくり
2) 教育・保育が大切にされる街づくり
3) 人と人のつながりが大切にされる街づくり

会の組織と運営

会は、正会員と賛助会員があり、会員の中から代表、理事、監査を選びます。
会は年１回の総会と、毎月行われる企画会議で運営されます。
会は会員からの会費(年５千円)、補助金、助成金、寄付金などを持って運営されます。

会の活動

次のような活動を行っています。
1) 人権・教育のまちづくりネットワーク事業
2) 人権教育推進事業
3) 地域教育推進事業

具体的には、次のような活動があります：
* 講演会、学習会、フィールドワークなど
部落差別解消推進法学習会、ハンセン病問題連続学習会、人権教育に関わる映画上映会など
* 学校教職員の人権問題学習への講師派遣、企業の人権問題学習への講師派遣
* 田植え・稲刈り交流会、子ども食堂、ミカン狩り・いちご狩りなどの交流会
* 地域行事への参加

会員の種類
および登録方法について

正会員
スイスイ・すていしょんのさまざまな活動へ積極に参加できる会員
年会費 5,000 円

賛助会員
資金的援助をいただける個人または団体の会員
年会費 5,000 円以上

入会金
正会員・賛助会員とも入会時に収めていただきます。
入会費 1,000 円

※正会員・賛助会員とも
年会費 5,000 円(一口)
入会金 1,000 円(入会金のみ)
※会費払い込み確認をもって、会員登録手続きとさせていただきます。

スイスイ・すていしょん
会員登録書

会員区分	□正会員　□賛助会員
	□個人　□団員
フリガナ	
名　前	
所　属	
住　所	〒　－
ＴＥＬ	
ＦＡＸ	
E-mail	@
会費振込先	大阪シティ信用金庫　加島支店 普通：　8059626 特定非営利活動法人 スイスイ・すていしょん 代表理事　桑野　弘

広　報（法人WEBページ・BLOG）

～　さいごに　～

私たちは
これらの取り組みを
地域住民の皆さんと
休眠預金助成金活用事業を通じて増えた
協力者のお力を借り
継続して取り組み続けます！